For Adult Only
ERROR MESSAGE
午後茶の館

ここは 森の
はずれの
とある一窓の家
ぐへへ この
パイオツ
たまんねえ〜
ズキュ
ズニュ
あっ
ああっ もう
ダメですぅ〜
ーーーっ!
もっと
ハグハグ
しへやふ〜!

この家では
いままさに
xpが　オオカミに
襲われている
ところであった
うあっ
た、助けて
ひっ
お願い
あううっ
イクノ
イッちゃうう
ーーーーノー

もしもし
Xpたん？
？
……
熱でも
あるのカナ？
ヘンな
息遣い…
あっ
そうか！
きっと 風邪
ひいたんだ
お見舞いに
行かなくちゃネ

こうしてM◎ミドリ頭巾はXpの家にお見舞いに行くのであった
もとい
▲無敵のういんどうず
お見舞いの品OKッ――――
準備万端用意周到な自分にちょっと得意なミドリ頭巾であった
完璧♪
アホ毛もいつもより多めに回転中

一方 Xpは
まだ SEX
していた
あ…
ポタ
あっ

おかしいな
留守のはずは
ないんだけど
やむを得ないわ
合鍵を使わせて
もらいマス！
あ あれっ
うまく まわら
ないな／
ミトリ頭巾は
デフラグ（型に
はめること）が
苦手だ
よしっ
えいっ！

Xpたん
お見舞いに
きたよーー！
?
ど　どうしたの
ミドリ頭巾ちゃん
ゴホ　ゴホ
具合　よくなさ
そうだね
大丈夫よ
きにしないで
わっ　Xpたん
ひどい声ッ！
あれっXpたん
お耳大きく
なった？
ネ　ネコミミ
モードでぇー
～ーす♪

ピク
ネコミミモード?
あ　いや　ミドリ頭巾ちゃんの声がよく聞こえるように　と思ってね　ウフフフフフ
なんか2ぶたんと間違えそうだからこんな耳やめようよ～っ
まちがえねえよ
(オイオイ)
食べちゃ～う
食うなっつーかしゃぶるなぁ～～～～～!

そうた　汗 拭いて　あげるよ
ちゃんと　目　つぶっとくから　恥ずかしく　ないってばー
うひゃひゃ　コラッ　ヘンなとこ　触るなッ
！
だ　大丈夫　けっこうよ　よけいなこと　しないで
おおっ　Xpたん　けっこう　毛深いノ～
くはっ　たまらんー
こーなったら　行きがけの　駄賃だ
おクチ　入さい
それはねッ

オマエのオッパイをハグハグするためサァーン！
ふにゃあー！
こ　これはコイツは
?
オッパイが小さくてハグハグできねえええええッ！

なにが ナメナメ専科だ コノ野郎ォ
あ あのッ わたし ナメナメ専科 ですから・・・

**「花瓶に入ったスープを
ご馳走された　キツネの気持ち
オマエなんかにゃ
一生わかりっこないのサ！！！」**

■ミドリ頭巾
「え～　なにそれ　意味わかんな～い。」

ブチッ

（逆上したオオカミは、ミドリ頭巾に襲いかかる。）

■ミドリ頭巾
「きゃあああああーーー！！」

■その頃　Ｘｐは……

まだ、絶頂の余韻に痺れた
ままなのであった。

■オオカ
動くなよ
動くと アソコが食っちまうし！

（ト丿頭巾は固まって動けない）

■オオカ
ーーノしゃぶりをしてもらえ

しゃぶったか。

ト丿頭巾はオオカミに促がされるまま
彼の男性自身におずおずと
口を近づけるのであった。

クチュ……チュ……

ミドリ頭巾は無我夢中で
その硬いモノを咥え　しゃぶった。

歯をたてないように
唇と舌で時折強く圧しながら
ゆっくり　そして激しく

すべてオオカミの指示どおりに

こんな状況でフリーズしたら
二度と起動してもらうことはないだろう。

頭の上から頬のほうへ　髪をつたって
オオカミの唾液がしたたってくる。

恐怖。

そして、ミドリ頭巾の全身はケモノの匂いに包まれていった。

もはやミドリ頭巾に為す術はなし！！
ただ、獣根・獣液を注がれるのみ！！

ついに少女は
自らを支えきれずに
膝をついた。

腰から下が、まるで自分で
なくなったかの様な
宙ぶらりんになったような
不思議な脱力感。

が、そんな脱力状態にあって
さらに彼女の膣は、強く圧く
締めつけてくるのであった。

冷たいオオカミの爪が白い肌に
食いこむほどに、薄桃色の
乳首が突起する。

さあ　こんどは　ふたり　むきあって
おチ〇チ〇と　おマ〇コを
こすり　あわせて　みよう

にゅるにゅる
くにゅくにゅ

ふにゃふにゃ
ぽかぽか

よいしょ　よいしょ

はあはあ
ふうふう

ああ　いいきもち

ねえ　もう　いれても　いい？

だめだめ　まだまだ
もう　すこし

も――――

――――っ

ガマンできないッ！！

お願い　膣中にッ！！
わたしの膣中に
ぶちまけてッ！！
あなたの精子を
ぶちまけてッ！！

白ら脚を絡めて
少女は　白い尻を振る。

ギュウウゥ
キュウウ

いてッ
いてて／
いててててー／
抜けねえッ
抜いてくれえ
あッ
いいけない
またやっちゃった
ミドリ頭巾はデフラグ（型にはめること）が苦手なのであった
イヌのおチンチン
ヘンなカタチしているから
イヌじゃねえー／

こうして
オオカミは
御用となった
めでたし
めでたし
ほ
ねえ
お見舞いは
うれしいけれど
これは　ちょっと
いけないと思うわ
え
あ…
おしまい

ERROR MESSAGE

不明

不正が原因で本書にエラーが発生しました。
本書は終了します。

問題が解決しない場合は、本書を再読してください。